

大学祭のクラス展示

～あそびのポケット～

2年生運営委員

〈Aチューターグループ〉

●魚釣り



私たちは、年齢ごとに楽しめるように工夫し魚釣りを考えました。釣竿に磁石を付け、釣る簡単なタイプのもの、針金をモールに引っ掛け釣るタイプの3歳以上児が楽しめるものを考えました。

魚は、色画用紙にトイレットペーパーなどの廃材をつけ立体感を出しました。釣竿は広告を細く丸めたものを作り竿にしました。子どもたちにも身近な廃材を使い様々なものを作ることが出来るということを知ってもらおう機会にもなりました。

ポイント制にし、大きい魚はポイントが高く、釣ることも難しかったため年齢の高い子は競争心が高まり、楽しんでいる姿がありました。年齢が低い子の中には、多く釣ることを楽しんでいる子もいました。遊び方からも年齢の違いを知ることが出来ました。また、一人ひとりの釣り方、楽しみ方も違い、個性ある姿を見ることが出来ました。

魚釣りを楽しむ子に学生も声を掛け、一緒に楽しむこともでき、とてもいい経験になりました。

〈Bチューターグループ〉

●スライム作り



私たちは、スライム作りをしました。ボールの中に、洗濯のり、絵の具をといた水、ホウ砂を入れ、混ぜ合わせます。徐々にバラバラ、ポロポロからネバネバ、プニユプニユになっていきます。ホウ砂は、目を洗う時などに使う薬品で、薬局で購入できます。口に入れると危険なので気をつけました。

工夫した点は、絵の具をといた水をいろいろな色にして、子どもが好きな色を選べるようにしました。それにより、いろいろな色のスライムを混ぜ合わせて遊ぶ姿が見られました。また、クッキーの型抜きを用意し、遊ぶようにしました。

反省点は、何か目標を決めて遊んでもらうと良かったと思います。遊び始めると夢中になっ

てしまい、終わるタイミングがわからない様子でした。そのため、机が足りなくなってしまうこともあったので、遊ぶ場も十分に用意しておくべきでした。

保護者の方からは「普段こんなに思いっきり家では遊べないから良かった」と嬉しいお言葉を頂きました。「持ち帰って、冷蔵庫に入れておくと冷たく固くなって明日からも使えるよ」と伝えると喜んでいたので、私たちも嬉しく思いました。

〈Cチューターグループ〉

●わなげ



ハロウィンをイメージしたわなげをしました。5～6つ並べたペットボトルに対して新聞紙の輪で入れるという遊びです。

私たちが工夫した点は、新聞紙で作った輪の大きさを様々にしたこと。小さな輪になると、ペットボトルに入れるときに、少し難しくなり、子どもたちが楽しむことができると考えました。

また、投げの位置を3か所用意し、年齢によって変えました。

子どもたちは、手前のペットボトルには多く入れることができていたけれど、奥のペットボトルに入れることは少し難しかったようです。輪投げの土台に傾斜があればよかったと感じました。

〈Dチューターグループ〉

●おばけたおし



私たちは、おばけたおしをしました。18体のおばけを、ボールで倒すという、ボーリングのような遊びです。個性豊かなおばけをペットボトルに貼り、見ただけで子どもたちがわくわくしたり、「たおすぞ!」という気持ちになれるように工夫しました。また、ペットボトルには、色水を入れました。そうすることで、彩りも楽しむことができ、適度な重量もつけることができると考えたからです。

実際に子どもたちの姿を見ていると、「あのおばけをたおすぞ!」という声や、「やったー! 3匹もたおした!」などといった声があり、子どもたち自らで、この遊びの面白さを見出してくれていたように感じました。また、「○○ちゃんがんばれ!」「○○くんすごい!」など、ほかの子どもがしている様子を見て、一緒に応援したり、喜んでいる姿も見ることができました。

2日間を通して、おばけによっては劣化してしまっていることもあったので、そのようなことにも配慮、準備を行き届かせたいとも感じました。

子どもたちが意欲的に楽しんでくれている姿を多く見ることができ、自分たち自身も、とても嬉しかったです。今回のことを今後にもしっかり生かしていきたいと考えています。

〈Eチューターグループ〉

●宝探し



私たちは宝探しをしました。段ボールで作ったプールに新聞紙をちぎったものや、画用紙で作った落ち葉などをたくさん入れて、その中に、どんぐりなどをいくつか入れ、それを宝として子どもたちに探してもらい、それらを見つけたら、プールの横にある芋ほりゲームをして、景品を貰うというものです。芋ほりゲームは、段ボールに穴をあけ、その穴の中に新聞紙と画用紙で作った芋を入れて、それを引っこ抜くという遊びです。芋のツルはスズランテープで作りました。

反省点として一番大きいのは、プールの枠の高さです。子どもたちは探すのが楽しくて、体を前に乗り出してプール中央の方も探そうとするので、枠がぐちゃぐちゃになってしまいました。子どもが膝立ちをした時の高さを考えて枠を作れば良かったです。他には、芋ほりの芋が頻繁にツルから取れてしまったことです。来てくれた子どもの年齢層が幅広く、大きい子どもたちは力いっぱい思いっきり引っ張るので、もっとしっかりツルと芋をくっつけておく必要がありました。また、取れてしまってもすぐに直せるように、近くにテープ類用意しておけば良かったです。

反省点は多くありましたが、何度も来てくれる子どももいて、子どもたちには楽しんでもらえたようで私たちも嬉しかったです。

〈Fチューターグループ〉

●玉入れ



私たちは、玉入れをしました。コーナー全体をサファリパークに見立てて、段ボールで口を大きく開けている動物たちを作りました。玉入れの玉は、新聞紙を丸めたものに、花紙を巻いて作り、野菜や果物にしました。その玉を、一人5つ、線から動物たちの口に向かって投げて遊んでもらいました。

ただ穴に向かって玉を投げるのではなく、動物にしたり、投げる玉を野菜や果物にしたりすることで、子どもたちは玉入れという遊びだけではなく、サファリパークの雰囲気も楽しんでくれていました。また、穴の大きさや玉の形状を変えることで、幅広い年齢の子どもたちが楽しめるよう工夫しました。

反省点は、ルールなどをきちんと決めていなかった点です。年齢の低い子どもは投げて遊ぶだけでも楽しんでくれていましたが、年齢が上がるにつれ、「この動物に入ったら10点！」な

どと、点数やルールを設定しておくほうがより楽しく遊べるということがわかりました。

子どもたちの「楽しかった!」「もう1回したい!」という声を聞くことができ、私たちも楽しい時間を過ごすことができました。

〈Gチューターグループ〉

●キーホルダーづくり



私たちは、遊びに来てくれた子どもたちが、楽しかった思い出の一つとして何か残るものを…と思い、キーホルダーづくりにしました。これは、プラスチックの板にマジックで絵や模様を描き、オープンで焼くと小さく縮み、紐をつ

けると可愛いキーホルダーになります。プラスチックなので、子どもたちが手に取った時に危なくないよう、あらかじめ角を丸く切り落とし、紐を通すことができるようにパンチなど使い穴をあけておいたものを用意しておきました。

子どもたちがどんなキーホルダーができるのかイメージしやすいように実際に作ったもの（オープンに入れる前と入れた後のもの）を見本として用意しました。また、あらかじめ絵を描いたもの（下絵など）を用意するのではなく、子どもたちが思い思いの絵や模様を描けるよう、あえて何も指定しませんでした。

反省点として、完成の見本を子どもたちが見た時に、サイズがとても小さく、とてもがっかりしている子どもたちの姿が何人かありました。また、一人いくつまで作ることができるのか最初は制限していなかったため、材料が足りなくなってしまったので数を決めるか、材料を多めに準備するべきでした。

当日はたくさん子どもたちに来てもらい、楽しそうに作っていたので嬉しかったです。オープンで縮む自分の絵を見て驚く子どももいて子どもたちにとっても新しい発見となったのではと思います。